

編集後記

平成21年度の『学苑 人間社会学部紀要』をお届けします。皆様のご協力を得て、無事刊行できましたことに感謝申し上げます。学部の使命としては、毎年学部紀要を刊行し、つなげていくことが大切です。そのつなげるは、単なる継承ではなく、「発展させてつなげる」ことが求められます。その任を果たせたかどうか、また、ご意見をいただければ幸いです。

人間社会学部は、4学科構成になっています。各学科のこの1年間の様態等を簡単にまとめてみますと次の通りです。

心理学科は、学科、大学院ともに充実した1年間であったように思います。この1年間は、特にカリキュラムの充実に努めました。学生も、積極的に活動を展開してくれました。1～3学年の学寮研修では、研修目標を「Change」とし、一人ひとり自らがChangeしたいと思っていることを考え、取り組んでくれました。4学年の学寮研修は、紅葉真っ盛りの会津で行われました。例年にも増した参加数となり、最終学年の交友を互いに深め、それぞれ体験学習を通じて貴重な思い出をつくってくれました。

現代教養学科は、特に教育・研究の面での充実に心がけました。学科では、「現代教養入門」という少人数の授業を1年前期の必修科目として設置しています。この科目も2年目になり、軌道に乗りつつあります。17人ぐらゐを1グループとして5人の教員が担当しました。他の大学で「基礎ゼミ」と呼ばれている科目と同じようだと思います。社会科学を学ぶために必要な素養や考え方、読解力、分析力、社会性などを身につけることを目的にしています。その成果を実感できたのが何よりうれしいことでした。なお、4年生は、就職活動で苦戦を強いられながらも、病気入院中の1名を除いて、全員が卒論を立派に仕上げてくれました。

福祉社会学科は、今年度から、学科名を福祉社会学科と改め、「福祉社会を担う人材育成」を学科教育の新たな目標に据えました。教育内容は、①対人援助の専門職をめざす「ソーシャルワーク」、②福祉マインドをもって地方行政や民間で活躍する「福祉キャリア」、③子育て環境を豊かにする「子ども・家庭支援」の3つのコースに集約し、それぞれのコースに見合った専門的知識や技術を習得できるようにしています。新学科名となつてのこの1年、確かな歩みを実感することができました。

初等教育学科は、今年度で設置4年目になります。また、大学院の人間教育学専攻も2年目となります。つまり、学科、大学院ともに完成年度ということです。今年の4年生は入学時47名でした。全員が4年間の学修を無事終えようとしています（3年次に3名編入し、同様にがんばってくれました）。新学科新設の期待にこたえるべく教員と学生が一体となって取り組んだ4年間であったように思います。次の飛躍への基礎固めができたのではないかと感じています。

このような状況下において、本紀要が完成しました。投稿された先生方、近代文化研究所の皆様方はじめ、お世話になりましたすべての皆様に感謝申し上げますとともに、『学苑 人間社会学部紀要』がさらに発展していきますことを念じて任を終えさせていただきます。

編集委員 渡邊佳明・木下武男・根本治代・押谷由夫

☆掲載論文の無断転載を禁じます。	発行所	昭和女子大学
	〒154-8533 東京都世田谷区太子堂一ノ七	近代文化研究所
電話	03(三四一)五三〇〇	
学苑	八百三十二号	
定価	八四〇円(本体八〇〇円)	
購読料	一カ年分 一〇〇八〇円	
	(本体 九六〇〇円)	
印刷所	三 秀 舎	
編集発行人	猪 熊 雄 治	
印刷	三 秀 舎	
発行	平成二十二年一月二十日 印刷	
	平成二十二年二月一日 発行	